

展示資料



ブナ属の化石

縞状の堆積構造



微生物の活動が低調な秋から冬にかけての淡色層には、しばしば分解されずに堆積層に覆われた木の葉が化石となって残っています。現在の蔵王山麓では標高 400~1,000m 付近に分布するブナ属の化石が多く見られ、当時の環境は現在よりもかなり寒冷な気候であったことが分かります。

円田珪藻土

約200~100万年前 蔵王町平沢・鎌倉沢

春から秋にかけて珪藻やプランクトンの死骸が堆積した濃色層と、秋から冬にかけて黄砂や粘土鉱物が堆積した淡色層が一組で一年を示します。このように木の年輪のような地層を年縞堆積物と呼んでいます。外からの土砂の流れ込みが少なく、また雨風や生物の影響を受けない深い湖底という条件下で 100 万年以上前の 1 年 1 年が長期間にわたって静かに地層に記録されたのです。